

課題名：交信かく乱防除技術の広域導入等による ヒメボクトウ被害の根絶

ねらい

ナシの主力品種「幸水」「豊水」の老木化による樹勢の低下に加え、夏秋季の高温干ばつ、冬期の温暖化などにより、ナシの生産量は減少しています。

また、萎縮病やヒメボクトウなどの枝幹病害虫による被害が多く、被害樹の改植を推進してきましたが、補植程度で本格的な改植には至っていません。

枝幹害虫ヒメボクトウについては、平成23～25年度の3カ年間「農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業」で「複合的交信かく乱防除技術」を現地実証してきました。

この技術を松茂～大津～堀江～板東～北島の被害圃場をまとめた約50ha規模の広域面積で導入するとともに、伐採とバイオセーフ等の薬剤防除を併用することにより、ヒメボクトウを上記の地域から根絶に向けて取り組みました。

活動地域・対象

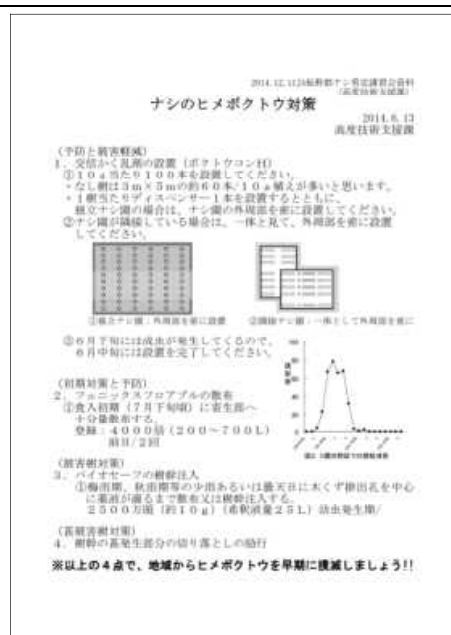
JA松茂、JA徳島北、JA板野郡、JA大津のナシ栽培農家248戸

普及活動の目標

- ・ 交信かく乱防除技術の広域実証ほ 50ha
- ・ 薬剤防除(バイオセーフ・フェニックスプロアル)の実施農家数 30戸
- ・ 縮伐、伐採の実施農家数 30戸

目標に向けた活動概要

- ・ 交信かく乱防除技術の広域実証の実施
広域実証圃 100ha
現地調査 10カ所
- ・ 薬剤防除(バイオセーフ・フェニックスプロアル)の技術指導
講習会、研修会 24回
- ・ 縮伐、伐採の推進
講習会、研修会 24回



交信かく乱、薬剤防除、伐採を総合的に実施するための啓発資料

普及活動の成果

- 交信かく乱防除技術実証ほ 100ha/50ha 達成度200%
- 薬剤防除実施農家数 30戸/30戸 達成度100%
- 縮伐、伐採の実施農家数 30戸/30戸 達成度100%



ヒメボクトウの交信かく乱剤の設置



ヒメボクトウ薬剤防除技術の実演
(鳴門藍住農業支援センター協力)

用語 説明

交信かく乱技術：環境にやさしい農薬として、昆虫の交尾行動を誘起する性フェロモンと呼ばれる化学物質を利用した交信かく乱剤が使用されます。この防除剤は直接虫を殺す活性はありませんが、空気中に性フェロモン物質がたどることにより、雄成虫は雌成虫が配偶行動のために出している性フェロモンを認識しづらくなり、同じ種の雌成虫を発見することを妨害します。これにより、雌成虫の交尾の機会が減り、子孫の数を減らす効果があります。

今後の発展方向

- 現在、ヒメボクトウの交信かく乱技術等の広域的取り組みについては、平成27年度以降国補のIPM事業等を活用し、3年間継続できるように関係機関と調整しています。

関係者からの声

- 交信かく乱技術の広域実証を実施した結果、一部の農家からは、「新食害が減った感じがする。」との声ありました。(剪定講習会時に確認)
- 農家、JAからは、「折角始めた交信かく乱技術の広域処理なので、今後も3年間は継続できるように願いたい。」との声があります。

高度技術支援課

連絡先：徳島県名西郡石井町石井字石井1660 tel：088-674-1922